

2016/2/19、望の記述より 324 日挿入年移動
2015/4/23、26、5/8、5/9、5/10、9/26 誤植訂正
2015_4_19～22 付 オリジナル原稿

ホツマツタエ講座

アスス暦の太陰太陽暦は現実だった ！！

(新) 懸案だったアスス暦の太陰太陽暦の証明と 1年間の平均日数の再確認

(旧) 懸案だった閏年の発生パターンの発見と 1年間の平均日数の再確認

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

お詫び

1、改訂前

先(2015_4_22 付)に発表しておりました当原稿の参考資料である、エクセル版「アスス暦(太陰太陽暦) 閏年の発見記と暦日計算結果(76年間)」に掲載中の「アスス 688 年 12 月 1 日の日エト」の項において、ホツマ本来の記述エト NO,が「45」であるのに対し、計算エト NO,を「15」と掲載しておりました。この違いは、エトの「30」であり、1 ヶ月の違いになっておりました。だが、同時に計算した他の 5 個所のエト NO,が、記述と計算値とが一致していたため、当該部は、ホツマの記述ミスと安易に判断して当原稿の解説を進めておりました。その詳細は、次の表1「アスス 688 年 12 月 1 日の日エトの計算事例」をご参照して下さい。

表1 「アスス 688 年 12 月 1 日の日エトの計算事例」

アスス 687 年		アスス 688 年			
エト NO, 計算 : 自動		エト NO, 計算 : ハンド		備考	
年	日エト NO,	年	日エト NO,	コメント	評価
1 月 1 日	56	1 月 1 日	50		
1 月 2 日	57	1 月 2 日	51		
・	・	～	～		
・	・	11 月 28 日	13		
・	・	11 月 29 日	14		
・	・	12 月 1 日	15(45)	計算エト(記述エト)	不一致
・	・	12 月 2 日	16		
・	・	12 月 3 日	17		
・	・	～	～		
12 月 27 日	47	12 月 27 日	41		
12 月 28 日	48	12 月 28 日	42		
12 月 29 日	49	12 月 29 日	43		

だが、その安易な判断はその後も脳裏より離れず、次の日より再検証を繰り返した結果、当アスス 688 年は、ハンド計算した個所であることを再吟味しました。このことからハンド計算に至る経緯を当時の原稿「アスス暦の閏月の発生パターンの発見記」に遡って、簡単に思い出して見たいと思います。

(1) エト差が発生した原因

元になったアスス暦の再現式の暦法は、1 年約 385 日(13 ヶ月)です。この式よりアスス暦の年表を作成する際、21 個所の計算個所に対し 6 個所は、月の計算を+1 月加算しないと記述エトに一致しないことが判明しておりました。そこで、先にアスス暦の閏月を確定する際、6 個所を閏月と断定し、閏月の発生パターンをアスス暦の年(穂)より求めておりました。すると 6 個所の発生パターンは、5 年目、8 年目、12 年目、15 年目、18 年目になります。残り 2 個所の閏月は、2 年目、11 年目に隠れておりました。このようにして、閏月の発生パターンを確定しますと、次の確定作業は、暦日の日エトを計算した年表の作成になります。

その年表を作成する前提は、「エト NO,の連続性」であり、「ある年の最後のエト NO,の次は、翌年の最初のエト NO,になる」ことです。だが、アスス暦の再現式は、1 年 13 ヶ月において自動計算するシステムのため、12 ヶ月、閏月(13 ヶ月目)の太陰太陽暦を自動計算しようとしますと、ある年でホツマの記述エトと「30 エト(日)」のズレが発生します。このズレを制御するため、閏年の前年をハンド計算し、エト NO,の連続性を確保しておりました。この方法のメリットとしては、新たに暦法を作成する方法としては正解ですが、今回のように元々ホツマツタエに記述エト NO,が存在し、このものに対し、計算でエト NO,を再現させる再現方法については、デメリットの計算だったようです。

2、改訂後

(1) 改訂・太陰太陽暦の説明

新たに作成する改訂・太陰太陽暦は、改訂前の太陰太陽暦の欠点を完全に補完するように、(1)アスス暦の 21 個所の日と日エト NO,の一致を優先し、かつ、(2)19 年の平均日数を太陽暦と近似する太陰太陽暦であって、その暦は古代に遡って評価しても見劣りがしない暦が再現したようです。

その結果、次の表2「19 年の日数比較」、表3「比較・改訂前後のアスス暦の太陰太陽暦の 19 年間年表(アスス 685 年～703 年間)」のように、19 年の内、約 384 日を 13 年(回)、約 324 日を 6 年(回)の組み合わせで計算しますと、太陽暦で計算した延日数と比較しますと、表2では約 3 日の差の値が得られ、表3では 0 日の差になります。また、暦日を詳細に計算しますと、表4「19 年～76 年間の 1 年の平均日数の計算結果」のように、アスス 685 年～760 年の 76 年間の 1 年の平均日数は、約 365.2105263 日 that 得られ、太陽暦の 365.2422 日との差は、僅かに約 0.00316737 日になっておりました。

表2 「19 年の日数比較」

		計算式	各日数	総日数	1 年の日数
アスス暦	19 年	約 384 日×13 年(回)	4992	6936	365.0526
		約 324 日× 6 年(回)	1944	—	—
太陽暦	19 年	約 365.2422 日×19 年(回)	6939.6018	6939.6018	365.2422

表3 「比較・改訂前後のアスス暦の太陰太陽暦の19 年間年表(アスス 685 年～703 年間)」

アスス暦の太陰太陽暦の証明に織り込んだホツマの記述(1)(2)と隠れていた内容(3)(4)

(1)穂(年)月日、日エトの記述・・・21個所

(2)望(満月)の記述……………11個所(改訂後)

(3)閏年の隠れ年……………7個所(6個の挿入年、1、5、8、12、15、18年)(改訂後)

(4)小の月(324日)の隠れ年…6個所(6個の挿入年、2、6、9、13、14、17年)(改訂後)

発生		改訂前			改訂後		
		一年の日数	月数	算出	一年の日数	月数	算出
パターン NO,	アスス年						
1	685	354	12	ハンド	384	13	計算値
2	686	384	13	計算値	384	13	↑
3	687	354	12	計算値	324	11	↑
4	688	354	12	ハンド	384	13	↑
5	689	384	13	計算値	384	13	↑
6	690	355	12	計算値	325	11	↑
7	691	354	12	ハンド	384	13	↑
8	692	384	13	計算値	384	13	↑
9	693	354	12	計算値	324	11	↑
10	694	354	12	ハンド	384	13	↑
11	695	384	13	計算値	385	13	↑
12	696	384	13	計算値	384	13	↑
13	697	354	12	計算値	324	11	↑
14	698	354	12	ハンド	324	11	↑
15	699	384	13	計算値	384	13	↑
16	700	355	12	計算値	385	13	↑
17	701	354	12	ハンド	324	11	↑
18	702	384	13	計算値	384	13	↑
19	703	354	12	計算値	384	13	↑
		6938		延日数	6939		
		365. 157	12	平均日数	365. 2105		

表4 「19 年～76 年間の 1 年の平均日数の計算結果」

履 歴	旧・太陰太陽暦	改訂・太陰太陽暦
685 年～760 年	一年の平均日数	一年の平均日数
19 年間	365.1578947 日	365.2105263
38 年間	365.1842105 日	365.1842105
57 年間	365.2280702 日	365.2105263
76 年間	365.2236842 日	365.2105263

(2) 改訂後の「アスス 688 年 12 月 1 日の日エトの計算結果

新たに作成した、エクセル版「アスス暦アスス暦の太陰太陽暦の証明と暦日計算結果」より、先に問題になっていた「アスス 688 年 12 月 1 日の日エト」の計算エト NO,を、次の表5 「アスス 688 年 12 月 1 日の日エトの計算結果」より抜粋して説明しますと、ホツマの記述エト NO,「45」に対し、計算エト NO,は「45」が再現しました。

表5 「アスス 688 年 12 月 1 日の日エトの計算結果」

アスス 687 年		アスス 688 年			
エト NO, 計算 : 自動		エト NO, 計算 : ハンド		備考	
年	日エト NO,	年	日エト NO,	コメント	評価
1 月 1 日	56	1 月 1 日	20		
1 月 2 日	57	1 月 2 日	21		
.	.	～	～		
11 月 27 日	17	11 月 27 日	42		
11 月 28 日	18	11 月 28 日	43		
11 月 29 日	19	11 月 29 日	44		
—	—	12 月 1 日	45(45)	計算エト(記述エト)	一致
—	—	12 月 2 日	46		
—	—	12 月 3 日	47		
—	—	～	～		
—	—	12 月 27 日	11		
—	—	12 月 28 日	12		
		12 月 29 日	13		

なお、同時に確認のため計算した、他の 5 個所のエト NO,も、表6のように記述と計算のエト NO,が一致します。これで、6 個所の計算エト NO,が、完全に記述エト NO,に再現されるようです。

表6 「ホツマツタエのアスス暦日の記述とアスス暦の解説式より求めた日エトの順位番号」

NO,	ホツマ記述		—	ホツマ記述		改訂前		改訂後	
	アスス年	月		日	記述エト	計算エト	評価	計算エト	評価
1	688	12		1	45	15	不一致	45	一致
2	689	1	2	1	14	14	一致	14	一致
3	692	9	10	1	23	23	一致	23	一致
4	711	9	10	1	3	3	一致	3	一致
5	715	8	9	7	16	16	一致	16	一致
6	725	1		1	15	15	一致	15	一致

3、改訂後、アスス暦アスス暦の太陰太陽暦の証明と暦日計算結果

詳細な暦日計算結果をご覧になりたい方は、次のリンクHPアドレスをクリックしてご覧下さい。

HPアドレス：

http://space.geocities.jp/hotsuma_tsutae_0629/assu_uruu_tsuki_2016_2_18.xls

(おわり)

(ご参考)

改訂前の原稿は、次ページ以降に継続し公開中です。(2015_10_26)

2015/4/23、26、5/8、5/9、5/10、9/26 誤植訂正
2015_4_19～22 付

ホツマツタエ講座

アスス暦の太陰太陽暦は現実だった！！

懸案だった閏年の発生パターンの発見と 1年間の平均日数の再確認

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

概要(あらすじ)

ホツマツタエを読んだことのある人はご承知のことでしょうが、ホツマツタエにはスス暦(吉田説)とアスス暦の二つ暦が記述されております。この方、ホツマツタエに出会って約21年になります。その間にスス暦、アスス暦を研究し逐次発表して来ましたが、今まで懸案でした「アスス暦の閏年の発生パターン」を発見することができました。また同時に「アスス暦の1年間の日数も再確認」することができました。是非、ご一読をお願いしたいと思います。

また、今回の発表と過去の研究内容との整合性を読者にわかりやすく説明するため、「想定されるホツマ暦の変遷」と「過去の研究内容」を整理しました。このことで、スス暦、アスス暦の全体像が判明するかと思います。このホツマ暦の変遷を頭に浮かべながら読んで頂ければ幸甚と思います。

想定されるホツマ暦の変遷

ホツマの記述と 研究で確認された内容

「表示内容」 青文字:ホツマの記述 赤文字:確認

スス暦(1日16穂)→(短暦)スス暦(1日8穂)→(短暦)アスス暦

(古代太陽暦) ↓ 27鈴頃改暦(その後消滅) (消滅し、短暦の存在すら忘れられていた)

↓ ニニキネの頃

・消滅した短暦(1倍化暦)の存在を発表(2014_3_11)

↓

・不知火の発生日を1倍化暦で立証(2014_11_17)

↓

→(長暦)スス暦(1日16穂)→(長暦)アスス暦

(誤植のまま存続)

(古代天皇は、長寿が多かったと信じられている)

↑

・長暦、閏月の発生パターンを発見(2015_4_22)

ホツマがないと

(上記は、今回の原稿になります。)

判明しないこと

・長暦(2倍化暦)であることを発表(2014_3_11)

であった。

↓

長暦の原因を発見し、短暦に是正(2014_3_11)

↓

・2倍化暦から1倍化暦へ是正暦発表(2014_3_11)

I、ホツマツタエの暦日の記述

スス暦の記述は、21鈴125枝100穂～50鈴1000枝20穂までになります。アマカミ(天神)の御世の名では、7代アマカミ(天神)のイサナギ～アマキミ(天君)のカモヒトまでの6代です。またアスス暦の記述は、アスス21年～アスス843年までの823年間になります。スメラギ(天皇)の名では、タケヒト(初代・神武天皇)の頃～タリヒコ(12代・景行天皇)までの12代です。

暦日としては、スス暦では、鈴、枝、穂、月、閏月、日があります。また、アスス暦に限って言えば、年、月、日、日エトまでは近代暦と同様です。だが、ホツマ独自の暦日としては、年と日には「ホツマ・エト」の裏付けが記述されていることです。また、アスス暦の範囲には記述が確認できませんが、スス暦の範囲内の6アヤ(綾)10に「これを暦の うりふ月」との記述があり、アスス暦にも「閏月」があったことが予想されますが未確認でした。

II、アスス暦の解析状況

これまでの研究により判明しているアスス暦の内容

ホツマツタエに出会って約21年になります。その間にアスス暦の研究結果は、逐次発表して来ましたが、すでに発表した内容と重複しますが、ご参考に記載しましたので御覧して戴けると幸甚です。

1、太陰太陽暦

(1) 暦法に使用できる暦日の数

計算に用いる年、年エト、月、日、日エトの記述が、すべて揃っている暦日は、アスス暦では、21ヶ所になりました。

(2) 年、年エト、月、日、日エトより、日エトの再現式を考案、その精度と結果

21ヶ所の暦日を基に「ある計算式」を考案し、アスス暦の記述の年月日を入力することで、記述の日エトと同じエトが再現する「再現式」が、二つ作成されました。その各々再現式の1年は、日数が①「約384. 1948日」の「13ヶ月」と②「約264. 1946日」の「9ヶ月」になりました。だが、二つの再現式とも、近代的な暦の「1年365日」の「12ヶ月」の暦と違うため違和感があります。その結果、21個の暦日中 6ヶ所の日エトを計算する場合は、記述の月に対し「+1ヶ月」して計算しないと、日エトが一致しないことでした。この「+1ヶ月」は、閏年、閏月が存在していることを意味していると判断しました。このことを考慮し計算しますと、21個の暦日の精度は、記述の日エトに対し計算の日エトが「±1日以内」で再現することが確認されました。

(詳細は、下表「アスス暦の一年の日数」をご覧ください。)

【アスス暦の一年の日数】

○印：ホツマに記述あり、×印：ホツマに記述になし

項目	ホツマ	再現式（１）	再現式（２）	コメント
暦日の個数	○	21個	21個	
1年の日数	×	384.194880822673 日	264.194653934799 日	365 日と違う
月数	×	13ヶ月	9ヶ月	12ヶ月と違う
閏年、閏月	×	6ヶ所→+1ヶ月計算	6ヶ所→+1ヶ月計算	発生パターン不明
精度	×	±1日以内	±1日以内	
他暦と比較	×	古代マヤ暦に近い	イスラム暦に近い	古代暦に近い

2、太陽暦が隠れていた365日の確認

上の1、(2)項の二つの再現式において、1年の日数を「約384.1948日」と「約264.1946日」が求められたと記載しました。だが、本アスス暦の研究の本質は、（１）正確な一年の日数の確認と（２）アスス暦のスメラギ（天皇）、臣の在位年数の妥当性の確認になります。

（１）正確な一年の日数の確認

二つの1年の日数の「約384.1948日」と「約264.1946日」は、太陽暦の365日と違いますが、世界に目を向けますと、古代マヤ暦とイスラム暦に似ているため、この二つの1年の日数には、大きな意味が隠されていると思っておりました。また、この時点で近代的な暦の「1年365日」の「12ヶ月」が確認できてないため、打開策を模索しておりました。平成14年4月19日のことです。閏月の発想で①「約384.1948日」と②「約264.1946日」を組み合わせることを着想しました。下記の表【正確な一年の日数の確認】は、説明用に勘弁的に計算した表です。この結果、19年平均の1年の日数は、365.2474日となる、ほぼ太陽暦の一年の日数が隠れておりました。

【正確な一年の日数の確認】

		計算式	各日数	総日数	1年の日数
アスス暦	19年	約384.1948日×16年	6147.1168	6939.7006	365.2474
同上	同上	約264.1946日×3年	792.5838	—	—
太陽暦	19年	約365.2425日×19年	6939.6075	6939.6075	365.2425

また、6,566年間（任意の範囲）に渡り計算して見ました。その結果、1年の平均日数約365.2427日を得ることができました。更に計算の妥当性を見るため、理科年表の1900年1月

0日12時の回帰年の日数の一年の日数「365. 2421987810600日」と比較した結果でも、遜色がない日数が隠れているようです。差は、0. 0006日（10, 000年で6日の違い）です。

（２）アスス暦のスメラギ（天皇）、臣の在位年数の妥当性の確認

アスス暦で記述されたタケヒト（初代・神武天皇）～タリヒコ（12代・神武天皇）の天皇の一代当たりの在位年数を調査した結果、約66年間と現在人と比較しても異常な在位年数になっておりました。その原因を探求するため、スス暦に遡って調べた結果でも、アマカミ（天神）の臣であるオオヤマスミの家系、オオモノの家系においても、アスス暦のスメラギ（天皇）と同様に、また現在人と比較しても異常な在位年数になっておりました。

そして、この異常な在位年数の発生源を見るため、スス暦をつぶさに調査しますと、アマキミ（天君）の御世としては、アマテル神の皇孫のニニキネの御世でもあり、この頃のスス暦の約27鈴を境にスス暦が改訂されておりました。そして、約27鈴を境にして、前後の1代当たりの在位年数を算出と比較しますと、21鈴～27鈴の以前は1倍化暦の暦で確認され、27鈴～50鈴、アスス暦の御世は、2倍化暦で確認され、スス暦の臣および、アスス暦のスメラギ（天皇）が該当しました。そのため、2倍化暦→1倍化暦に戻した在位年数を見ますと、上のタケヒト～タリヒコ（景行天皇）の1代当たりの在位年数約66年間に對し、約33年となり現在人に近い在位年数になります。（現在人は、1代当たり約30年と云われております。）

更に、アスス暦は2倍化暦で作成されていたことを裏付けるように、熊本県八代海の「不知火」の発生月においても、アスス暦の記述は違っておりました。その「不知火」の発生は、自然現象であり、古代も現在も変わることがない普遍なものと思えます。それが、古代のタリヒコ（景行天皇）の筑紫巡行において、八代海を航行される時に「人の火ならず 知らぬ火の」、今で云う「不知火」が見えたとの記述です。時は、アスス暦の806年、景行天皇の御世18年のサ（5）月の初日の記述になります。

この八代海の不知火の発生をHPより検索しますと、旧暦の8月1日（2014年8月25日）頃の夜に「不知火」が見えると記載しておりました。このように不知火の発生は、古代は「サ（5）月の初日」、現在は「旧暦の8月1日（2014年8月25日）」と、二つの発生月がある筈ありません。このことで、アスス暦の記述がおかしいと思われますので、前述の「2倍化暦→1倍化暦に戻す変換表」より、アスス806（偶数）年5月初日を算出し直しますと、5月1日→ 9月1日になり、旧暦の8月1日（2014年8月25日）に近くなります。このような自然現象からもアスス暦は、2倍化暦であったことが云えます。

この項の詳細は、原稿「(仮)27鈴頃～のスス暦は、2倍化暦で誤植された古代太陽暦であった。その史料を基に、長暦(暦)の太陰太陽暦の(現)アスス暦が編纂されていた。!!」をご参照下さい。

Ⅲ、アスス暦(含む太陰太陽暦)の懸案

閏年の発生パターン年の発見と 1 年間の平均日数の確認

1、アスス暦の21ヶ所の年、年エト、月、日、日エトより、再現された閏年、閏月、日エト

21ヶ所の日エトを再現したと記述しましたが、前述したように、閏年の発生パターンが掴めておりませんでした。また下表の21ヶ所の中でも、6ヶ所(下表の閏月計算列)の閏月は掴めておりましたが、アスス暦の全823年間にどの程度、閏年、閏月が含まれているのか不明でした。

【アスス暦 閏年、閏月、日エトの計算結果】

閏月：記述月に対し+1ヶ月で計算済。 エト名：エトの順位番号を示す。

							計算された日エトの NO,			
天皇代	イミナ	天鈴の 記述	記述月	閏月 計算	記述 日	アスス暦 年 エト NO,	アスス暦 384 日	アスス暦 264 日	精度 384 日	精度 264 日
初代	タケヒト	58	1		1	17	17.82	17.82		
		61	2		1	59	59.95	59.99		
		99	1		3	51	51.81	51.84		
		133	3		10	41	40.51	40.76	-1	-1
二代	ヤソキネ	134	1		1	57	56.63	56.61	-1	-1
		169	5		10	10	10.62	10.93		
三代	シギヒト	175	12		6	52	52.86	53.32		
四代	ヨシヒト	208	2	3	4	49	49.14	49.24		
		229	2		1	44	44.69	44.69		
五代	ミルヒト	243	1	2	1	23	23.42	23.41		
十代	キソニエ	621	1		1	19	19.54	19.41		
		621	2		16	3	4.05	4.29	1	1
		649	1		1	36	36.99	36.86		
		668	1		10	25	25.68	25.74		
		682	7		1	52	52.71	52.77		
		688	12		1	45	45.61	45.85		
十一代	キソサチ	689	1	2	1	14	14.34	14.23		
		692	9	10	1	23	23.3	23.47		
		711	9	10	1	3	3	3.16		
		715	8	9	7	16	16.22	16.48		
		725	1		1	15	15.81	15.65		

2、統計手法により閏年の発生パターンを推測する。

(1)アスス暦の再現式より算出された閏年の確認と発生パターン

Ⅱ、1項の「アスス暦 閏年、閏月、日エトの計算結果」の表には、6ヶ所の閏月を記載しております。その閏年のアスス年は、アスス208年、243年、689年、692年、711年、715年になります。この6ヶ所の閏月の発生パターンについては不明でした。

そこで、近代の太陰太陽暦の閏年の発生回数について、「暦の語る日本の歴史(編著:内田正男)」を参考にさせていただきますと、19年間に7回の閏月を挿入すると記述しておりました。

このため、先に記載したアスス208年、243年、689年、692年、711年、715年が、19年間の何年目の閏年になるかを計算して見ました。その結果、19年間の内、5年目、8年目、12年目、15年目、18年目の5回の閏年の発生パターンでした。だが、太陰太陽暦の閏年の挿入は、7回と云っておりますので、この時点で、2回の閏年が未確認であり、不足しておりました。

【アスス暦の閏年の発生状況 (21ヶ所中の6個のみ)】

アスス年	19年間の閏年の発生年	回数	コメント
208年	18	1	
243年	15	1	
689年	5	1	
692年、711年	8	1	
715年	12	1	
合計		5	2回の閏年が不足している。

(2)残り 2回の閏年の発生年および、全7回の閏年発生パターンを推測する。

そこで、前述の5回の閏年について、19年間の閏年の発生順に並び変えて見たのが下表の最左列です。この表で気付くことは、1～4年間に閏年が記述されていないことです。

そこで、5～18年の閏年の発生間隔より推定することにし、間隔年列の5年を基準にして考えて見ました。すると、間隔年列の上下の年の差は、3年、4年(基準)、3年、3年になります。そこで、更に基準を変更して、4年を基準にしますと、左右に(3年)、3年、4年(基準)、3年、3年の配列が予想されます。先頭の(3年)は、閏月が隠されている年が予想され、19年間の閏年の発生順に置き換えますと、2年目の発生が予想され、これで閏年の6回目が確認されることになりました。だが、太陰太陽暦の閏年は、19年間に7回挿入することですので、残り1回の発見が必要になって来ました。

【並び替えたアスス暦の閏年の発生状況（21ヶ所中の6個のみ）】

19年間の閏年の発生順	間隔年	アスス年	回数	コメント
(2年)	(3年)		(1)	(推測の閏年)
5	基準→3	689年	1	
8	3	692年、711年	1	
12	4(基準)	715年	1	
15	3	243年	1	
18	3	208年	1	
		合計	6(内数1)	未だ1回閏年が不足。

3、アスス暦の再現式により 閏年の発生パターンを推測する。

(1)アスス暦の太陰太陽暦のカレンダーの作成の手順

カレンダーを作成する条件としては、アスス暦の再現式(1年約384. 1948日の算出式)で、すべての暦日を算出し、年、年エト、月、日、日エトの日エトの順位番号を求めることを優先しました。

- (1) なお、アスス暦の再現式の算出実績はすでに前述しておりますが、1 年約384. 1948日の1 3ヶ月ですので、これを基準にして作成することにします。
- (2) この算出値を基準に、前述で求めた閏年の6回を1 9年間の発生パターンに合わせて、閏年を挿入します。なお、閏月を挿入するとなると、閏月の月は1 3ヶ月目となります。その場合、エトの順位を優先しますと、前年の最後の月は、エトの1 周り離れた1 1 月になります。だが、1 朔望月で1 年を循環されますので、1 年の月は1 2 ヶ月になります。このため、1 年の最後の月を1 1 月とすることはできません。このため、前後の年では、再現式のエトの順位番号が使用できない年の発生が想定されます。
- (3) その場合は、閏年でない前前、前後、後後の年のすべての暦日を再現式で再算出し、日エトの順位番号が連続するように、ハンドで順位番号を確定することにしました。そして、前後の年に対し、中の年の日エトの順位番号の使用範囲は、前年の最後の日エトの順位番号に「+ 1」～後年の最初の日エトの順位番号に「- 1」の範囲に調整できるように月数を作成するようにしました。
- (4) なお、ハンドで順位番号を確定した年でも、事前に求めた再現式の月日の算出値を計算した月日の横にハンドで順位番号を併記することにします。そのことにより、一年の月数は日エトで制約され、エトの序列を優先した1 1 ヶ月、1 4 ヶ月は作れなくなりました。

また、後の(2)項に作成する19年間のアスス685年～703年間までのカレンダー・サンプルには、後の(2)項で述べる2 個の暦日が含まれることとなります。そのため、この2 個の暦日の日エトの順位番号が記述の番号に一致するようにカレンダーを作る必要も条件の中に入ってきます。

(2)作成されたアスス暦の太陰太陽暦のカレンダーのサンプル作成

今回は、7回目の閏年の発生を見極めるため、19年間に相当するアスス685年～703年間のカレンダーを作成しました。またカレンダーの精度を向上させるため、前後のアスス684年、704年も余分に作成しました。

なお、前述しましたが、アスス685年～703年間には、ホツマツタエの記述であるアスス689年1月1日(日エトNO, 14)および、692年9月1日(日エトNO, 23)が含まれております。この二つの日は、アスス暦の再現式では、閏年に計算されております。

【19年間のアスス685年～703年に含まれる閏年の年月日、日エト】

天皇代	イミナ	天鈴年	記述月	閏月計算	記述日	記述の日エトNO,	計算の日エトNO,
十一代	キソサチ	689	1	2	1	14	14.34
		692	9	10	1	23	23.3

今回のカレンダーの日エトの計算では、最低21年間×365日の7, 665回も計算するため、データが大きく本紙面に記載できないようです。そのため、掲載することを優先するため、カレンダー方式のエッセンスとして、下表にまとめました。

その結果、未発見の7回目の閏年は、11年目に隠れておりました。これにより、19年間の閏年の7回の発生パターンは、2年目、5年目、8年目、11年目、12年目、15年目、18年目になり、19年間の1年平均の日数である、約365. 2236842日(注1)を求めることができました。これにより、太陽暦の1年の日数を再現することができたようです。

(注1) サンプル計算中の計算結果

686 年～760 年	一年の平均日数
19 年間	365.1578947 日
38 年間	365.1842105 日
57 年間	365.2280702 日
76 年間	365.2236842 日

表「作成されたアスス685年～703年のカレンダー」

表中の1月～13月は、エトの順位番号を示す。

コメント：19年の暦日、閏月、ハンド挿入値、計算値の算出は、規則的に配置されているようです。

アスス年	発生パターンNO,	1月初日	12月最終日	13月最終日	一年の日数	閏月	算出
684	19	43	37	—	355		計算値
685	1	38	31	—	354		ハンド
686	2	32	～	55	384	閏月	計算値
687	3	56	49	—	354		計算値
688	4	50	43	—	354		ハンド
689	5	44	～	7	384	閏月	計算値
690	6	8	2	—	355		計算値
691	7	3	56		354		ハンド
692	8	57	～	20	384	閏月	計算値
693	9	21	14	—	354		計算値
694	10	15	8	—	354		ハンド
695	11	9	～	33	384	閏月	計算値
696	12	34	～	57	384	閏月	計算値
697	13	58	51	—	354		計算値
698	14	52	45	—	354		ハンド
699	15	46	～	9	384	閏月	計算値
700	16	10	4	—	355		計算値
701	17	5	58	—	354		ハンド
702	18	59	～	22	384	閏月	計算値
703	19	23	16	—	354		計算値
					365. 157		平均日数
704	1	17	10	—	354		ハンド

(ご参考)

アスス暦(太陰太陽暦)閏年の発見記と暦日計算結果

暦日計算のサンプル期間：アスス685年～760年(76年間)

HPアドレス:

http://space.geocities.jp/hotsuma_tsutae_0629/assu_uruu_tsuki_2016_1_20.xls

IV、アスス暦(含む太陰太陽暦)と、日本書紀暦日原典の比較

アスス暦の再現カレンダーと日本書紀暦日原典について、閏月の発生パターンを比較調査することになりました。今回比較したのは、アスス685年～703年(崇神天皇64年～垂仁天皇15年)までの19年間になります。その結果、アスス暦の19年間の発生パターンは、2年目、5年目、8年目、11年目、12年目、15年目、18年目であったことに対し、日本書紀暦日原典の19年間の発生パターンは、3年目、6年目、8年目、11年目、14年目、16年目、19年目であり、発生パターンは違っていました。この結果も含め、アスス暦と日本書紀暦日原典(支那暦ベース)の暦法は違うことになります。

表「作成されたアスス685年～703年のカレンダー」

表中の1月～13月は、エトの順位番号を示す

アスス年 (記述)	御世 (記述)	発生 パターン NO,	1月初日 (計算)	12月最終日 (計算)	13月最終日 (計算)	一年の日数 (計算)	アスス暦 閏月 (計算)	日本書紀 暦日原典 閏月
684	崇神天皇	19	43	37	—	355		閏月
685	65年	1	38	31	—	354		
686		2	32	～	55	384	閏月	
687		3	56	49	—	354		閏月
688	68年	4	50	43	—	354		
689	垂仁天皇	5	44	～	7	384	閏月	
690	2穗	6	8	2	—	355		閏月
691	3穗	7	3	56		354		
692	4穗	8	57	～	20	384	閏月	閏月
693		9	21	14	—	354		
694		10	15	8	—	354		
695	7穗	11	9	～	33	384	閏月	閏月
696		12	34	～	57	384	閏月	
697	9穗	13	58	51	—	354		
698		14	52	45	—	354		閏月
699		15	46	～	9	384	閏月	
700		16	10	4	—	355		閏月
701		17	5	58	—	354		
702		18	59	～	22	384	閏月	
703	15年	19	23	16	—	354		閏月
						365. 157		
704		1	17	10	—	354		

(おわり)

(参考文献)

ホツマの世界

2014_3_11

古代暦法「スス暦」、長暦(暦)「アスス暦」解説秘伝の書
～紀元前後の御世に「ホツマの世界」が存在した～

HPアドレス:

<http://home.k07.itscom.net/hotsuma/hotsuma-koyomi.pdf>

ホツマツタエ講座

特別講座

2014_11_17

(仮)27鈴頃～のスス暦は、2倍化暦で誤植された古代太陽暦であった。

その史料を基に、長暦(暦)の太陰太陽暦の(現)アスス暦が編纂されていた。 !!

HPアドレス:

http://space.geocities.jp/hotsuma_tsutae_0629/susu_asusu_kisetsu_no_kijyutsu_kai_3.pdf